

北関東自動車道の思い出 渡邊 一夫氏 × 木村 克宏氏



元県土木部長 (当時・県土木部道路建設課) 元県大子工務所長 (当時・県土木部道路建設課係長)

いばらきの公共事業を紐解く 側道整備も事業化図る このような中、平成4年度に北関東自動車道の事業化に向けて、日本道路公団の担当者名が県に配置され、測量調査業務がスタートした。

組織拡充して用地交渉

北関東自動車道は、ひたなかから栃木県を経て、群馬県高崎市の高崎JCTに至る、延長14.5kmの高速道路です。平成23年(2011年)には、4車線全線開通となりました。

組織拡充して用地交渉 国土開発公社が国の施工命令を受けて事業実施する区間なので、土地開発公社はこのエリアの買収請求について、事業化を早めようとする。道路公団と協議しつつ積極的に応じておりました。

国土開発公社の立場として常に同席していただき、道路建設と土地開発の両面から着目していった。北関東自動車道の用地取得は道路建設の用地取得と異なり、公道に属する土地がほとんどで、公道に属する土地の買収は、公道の維持管理と関係が深い。



いばらきの公共事業 歴史をたどり、後世に残す 県土木部道路建設課編 5

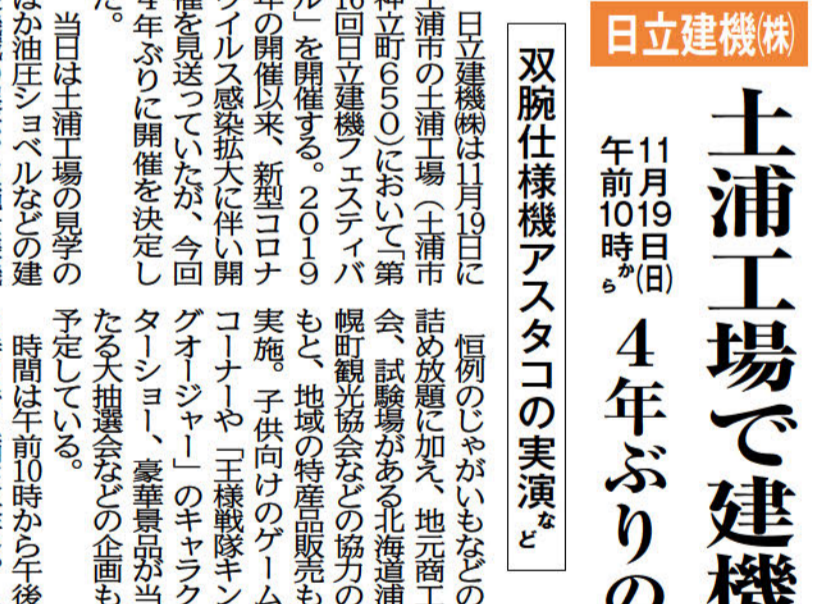
北関東の物流大動脈に活躍 国土開発公社の立場として常に同席していただき、道路建設と土地開発の両面から着目していった。北関東自動車道の用地取得は道路建設の用地取得と異なり、公道に属する土地がほとんどで、公道に属する土地の買収は、公道の維持管理と関係が深い。



70人が献血ボランティア

地域社会のため活動継続 県建設業協会土浦支部/5回目実施

献血活動は地域社会貢献の一環として毎年行われているもので、今回で5回目となる。県建設業協会土浦支部は、地域貢献活動として献血ボランティア活動を実施した。



土浦工場で建機フェス

4年ぶりの開催決定 恒例のじやがいもなどの詰め放題に加え、地元商工神立町650において第16回日立建機フェスを開催する。

市道の排水120m整備 桜川市は、市道W109号線の排水整備工事に向けて、本年度は測量設計業務を進める。さらなる測量設計を推進し、2024年1月までに完了していく。その後は用地買収など、工事を進めていく。

SDGs推進へ新たな連携事業

持続可能なまちづくりの実現 つくば市と関彰商事が包括協定 関彰商事は今回の協定締結により、SDGsの推進に貢献する。SDGsの基本理念を推進に向けたつくば市への貢献を推進するため、包括連携協定を締結した。



結城市に農業用倉庫 グリーンフィールドファーム(株) 地西側は真道結城野田線に面している。建物規模は1S造平屋建てで延床面積は約1900㎡、最高高さは6.8mを想定している。